

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	
允孝			蝶道を 萬	香子城月を 稀珪鶴	蝶舎 萬風	修清吉 うめ乃	由美子 六弦朝香			芳春		翔太	由美子 マスミ月を	チアキ
華やかに飛び立つ群れや鶴帰る 現実には鶴の飛び立つシーンは見たことがありませんが、テレビなどで見 ていても華やかさが伝わってきます。	大空を機影伸びやかうららかに	陽炎や二位集団は日本人	初恋の人の死を知る春の雪 死に依って甘やかに蘇る過去、季語が良い。季語の幹旋が素晴らしい。	手のひらに書きし駅名春帽子 一人旅の子供であろうか。掌の駅名と実際の駅名を見比べつつ、緊張し て車窓を眺めていたの浮かぶ。初めての一人旅でしようか。何故に 掌に駅名を書いたのかいろいろ想像するに楽しい。最近では中高生や大 学生だけではなく、OLさんにも見受けられます。	筑波嶺に片足かけて春の虹 片足をかけているのは虹か自分か。狭い山頂からの景が蘇る。片足の虹 と言い切った、イキでおどけた表現が斬新である。	下宿屋の四年の埃帰る雁 作者は下宿屋を引き払い雁は北方に帰る。季語との取り合わせ、表現に 工夫が見られており、秀逸。雁も学生さんとも旅立ちのとき、四年の埃が いいですね。	暖かや待合室の読み聞かせ ホッとするやわらかい時間です。下五で一気に情景を表現し秀逸。季語 の再考でより印象的になる気が。お母さんの心遣いと子への愛情が季語 と合っている。	白酒やママ友たちの厄払ひ	チキンキエフのレシピを恋へば春の星	貝拾ふ足跡二つ桜まじ 季語によって、足跡の点景から春の海に視界が広がりました。	朝ドラの昭和なつかし春惜しむ	のどけしや駐在さんはいつも留守 ほっこりするような光景が良い。	侵攻の深き轍の二月かな 現実が重くのしかかります。「深き轍」は、ウクライナ侵攻のロシアの 戦車のものでしようか。一日も早い停戦を切に願います。「深き」に果 てしない呪詛と悲しみが感じられます。キヤタピラーの轍は見たくない ですね。	春の雲追いかけてゆくエレベーター 擬人化による手法で、瞬間の閃き、面白い。
後記朝香	村杉清吉	新曆文	望月のぞみ	檜鼻ことは	渋谷きいち	青木鶴城	本橋稀香	反町修	網野月を	秋谷風舎	木村るみ子	荒一葉	木村隆夫	古賀由美子

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	
			由美子	のぞみ	正信	翔太	清吉		允孝 いちい	修	マスミ 寒立馬	きいち 一葉 京子 清吉	るみ子 朝香	るみ子 芳春 粉雪
春の夜や部活帰りの二人連れ	縁の下芽吹く野草よ名も知れず	神妙に小さき手合わすお中日	外套を脱ぐバス停を通り過ぐ 何か強い意志を感じます。	船内の幻想曲や春の波	秘密めく乱歩の蔵に梅香る 江戸川乱歩の世界そのままです。	永き日や赤城に捜す埋蔵金 季語「永き日」と埋蔵金捜しの取り合せが良く、ロマンもある。	春霖に見送る沖の船けぶる 適切な表現により、映像が鮮明に目に浮かんでくる。	それぞれに旅立ちのとき糸桜	魚河岸の高き糶声余寒なほ 春寒の糶声の響き良いですね。魚河岸の活気には冷たい空気が似合う。	白梅の滝降るやうに枝垂れをり 白梅の枝垂れを滝の落花に譬えたのが見事。	寒明の土やわずかに膨らみぬ 寒さが和らぐと、畑の土も潤いを帯びてくる。畑に出ることを待ちわび	青年はソムリエ志望雑木の芽 青年の夢と雑木の芽の取り合わせが良い。ソムリエ希望の若さが雑木の芽ぶきと重なる。ソムリエが季語をより新鮮にさせている。青年の進路の将来性を上手に季語に生かしている。	大ぶりのな婆のぼた餅彼岸寒 おばあちゃんのぼた餅懐かしい味。供の頃の祖母のぼた餅も大ぶりで懐かしかった。	山笑ふ九十九折行く路線バス 長閑な里山の表現と季語が良い。浅い春、伊豆の山道に行くボンネットバスの映像が浮かびます。これからますます楽しみな日々を予感します。
日高道を	うめ乃	岡田芳春	かげろう	野田静香	山中いちい	染谷正信	寒立馬	石関六弦	保坂翔太	井口俊晴	奥山粉雪	後藤允孝	池田珪子	丸山マスミ

45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	
	かげろう	六弦 ことは かげろう 珪子				京子 正信 チアキ 月を		喜夫	六弦 京子 のぞみ 粉雪 かげろう	静香		允孝 寒立馬	暦文	
山椒の芽椀に香りのつみれ汁	下萌や工事現場の休憩所 <small>季語と休憩所の取り合わせがよく、工事現場の様子が目に浮かぶ。</small>	8ギガに収まらぬ夢春の朝 <small>発想がユニーク。きつと再び見たい夢なのでしよう。8ギガではメモリエラーの春の夢ですね。覚えきれない春眠の夢の表現にオリジナリティを感じる。発想がユニーク。</small>	絵画展春兆す庭のカフェテリア	春晝のあいあいあいあい傷物か <small>大きな景色の春です。</small>	鶯や番仲良く枝移り	同胞に向ける銃口春の闇 <small>春の闇にえも言われぬ不気味さの解釈を感じた。銃口(死)と春の闇(秘められた生命力)の取合わせが秀逸。ロシアのウクライナ侵略だけでなく、古今東西の歴史にも思いが飛ぶ。世界中の声に向けて銃口放つ!正に闇である。季語が良い。「銃口」は生あるものに向けて良いものではない。全てを台無しにしてしまします。</small>	遠縁の古墳巡りや山笑ふ	理不尽な敗者をつつお春夕焼 <small>春夕焼けのやわらかさが理不尽なんて大したことは無く、あるのは明日への希望が見えます</small>	大地割る春筍の晴れ姿 <small>難しい表現を使わず、ストリートに元気が伝わってくる。語句のそれぞれに勢いがあり力強い。筍の強い生命力を表現しています。筍はあつぱれです!筍を待ちわびた嬉しさが伝わってくる。</small>	ああ言へばかう言ふ平和さへづれる <small>平和の有り難みが良く伝わってくる。</small>	警策に我を忘るる明けの春	老幹の威風堂々桃の花 <small>古木の桃ノ木の花はさぞかし立派だったのでしょうか。季節感が抜群、リズムもよい。</small>	「美女木」てふ地名の謂れ遠霞	目醒むれば厨に妻の春の宵
渋谷きいち	檜鼻ことは	青木鶴城	本橋稀香	網野月を	反町 修	木村るみ子	秋谷風舎	古賀由美子	木村隆夫	荒 一葉	持永喜夫	宮崎チアキ	正木萬蝶	小林京子

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	
		隆夫 喜夫	稀香	風舎		曆文 萬蝶 静香 鶴城	きいち ことは マスミ 喜夫	隆夫 きいち チアキ	隆夫 芳春 いちい うめ乃 朝香	るみ子	一葉 曆文 正信 いちい 鶴城	ことは	一葉 翔太 道を	
白鳥は今この時と飛び発てり	面影を求め猫カフェ暮の春	耕して移ろう時を肌で知る	卒業証書酔うて何処かに忘れ来し	坪庭に梅の盆栽京町家	春めくや信号待ちに鳩の列	荷を作る宛名は浄土春ごろも	青柳や江戸が息づく隅田川	囀りに心耳を澄ます雑木山	日を含む春駒の尾のふさふさと	のどけしや双子あやせる乳母車	「ちゃん」づけで呼び合う仲や花菜漬	花海棠京の町家の片泊り	犬笑う桜の下でひと休み	揚げ雲雀悲しき事は全て過去
山中いちい	野田静香	寒立馬	染谷正信	保坂翔太	石関六弦	池田珪子	井口俊晴	後藤允孝	奥山粉雪	村杉清吉	後記朝香	丸山マスミ	望月のぞみ	新 曆文

悲しかった過去を切り捨て、上昇志向の春の気持ちたちが季語によくフィットしている。「揚げ雲雀」の季語が効果的である。「全て過去」と言い切った作者の胸の内。

桜が終われば花海棠、宿は町家で祇園の馴染みの店へ。素敵な春の京です。

ふる里の仲間だろうか、「ちゃん」で呼び合う仲間のいる幸せ。季語が生きている。主人公の年齢は不詳ですが、「ちゃん付け」と「花菜漬」の取合わせが良い。幼馴染なのである。漬物を囲み、遠慮のないおしゃべりが聞こえてきそう。仲良しが見える。

日差で尾が膨らむ様を巧みに捉えている。「日を含む」に惹かれました。日向のにおいにするような春駒の健やかさがしつぽに表されています。日は陽？尾に日を含んできると言う表現が面白く春駒の目の輝きまでが見えてくるようなとても良いと思います。春ののどかさを中七と下五でよく表現されている。

中句が巧みである。ますのは耳だけでなく心もとしたところの着眼点が良い。その通りですね。良いお句ですね。

隅田川に浮かぶ屋形船が浮かんで参りました。川沿いの柳が煙るよう美しい江戸の春ですね。柳が芽を吹く頃、隅田川やその周辺の江戸の名残を残す町並みにも春がやってくる。いついつい出かけたくなる。「江戸が息づく」がよい。青柳に隅田川、昔の江戸が甦ります。

断捨離の様子？宛名が現実離れして面白い。宛名は浄土が秀逸。ウイットのきいた句、春ごろもがほつとさせる。

風流な京町屋の雰囲気と、その住人の意気が、素直に真つすぐに伝わってくる。

実体験であろうか、愉快です。

時の流れが素直に伝わる秀作です。晴耕雨読の表現が素敵です。

75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	
							風舎				のぞみ 珪子	修 粉雪 うめ乃	稀香 道を 静香 寒立馬	
							初蝶の花から花へ口付けす <small>春を迎えた喜びが軽やかに伝わってくる。軽快な中七と艶ばい下五の表現が秀逸である。</small>	殿（しんがり）は俺の定位置つくづくし	腹八分メに手が出る山葵巻き	雨樋の側にひよっこり小米花	一片の肉の冷たき椿かな <small>極寒の日の一輪の椿の描写が妙。</small>	春昼や店主不在の古本屋 <small>春昼ののんびりとした長閑さが店主不在の古本屋にぴったりの取合せの妙。長閑な日、日本は平和ですね！。</small>	鳥雲に入る逆さ富士湖（うみ）に在る	春昼のテレビの先にある戦禍 <small>目を覆うような惨事が現実にかけているのにもならない。チャネルを変えれば全く違う場面がでるテレビは他人事と思ってしまう危うさもある。時事俳句ですが秀句です。「テレビの先・」が良い。春昼と戦禍の対比が良い。時事ネタを扱って見事</small>
							宮崎チアキ	正木萬蝶	持永喜夫	うめ乃	小林京子	日高道を	かげろう	岡田芳春